参画意識を高め教育活動の充実を図る学校評価

－２学期制を生かす中間評価の実践を通して－

蒲郡市立竹島小学校

１　はじめに

本校は平成 18 年度，研究テーマを「組織力を強化する学校評価の取組」とし，前年度の実践を生かした学校評価のシステムづくりと，全教職員による自己点検・自己評価を通して，学校運営や教育活動への参画意識を高めることに取り組んだ。そのために，学校運営委員をメンバーとする学校評価委員会を設置した。学校評価委員会は，①評価項目・評価基準の設定，②情報・資料の収集・整理，③自己評価書の作成,④外部評価書の作成を目的とし,この委員会を中心に学校評価を推進することで，学校評価がより組織的な取組になることを期待した。評価資料には「学校評価（教職員による自己評価)」と児童・保護者を対象にしたアンケートを用いた。また，平成 17 年度に導入した学校評議員を外部評価委員に位置付け，外部評価の在り方にも着手した。この実践を通して,「評価資料の収集及び分析→自己評価書作成→外部評価委員会→改善策を今年度の学校運営・教育活動に取り入れる」という流れができ，ＰＤＣＡサイクルに則した評価システムを構築できたととらえている。

しかし，学校評価委員会があまり計画的に開かれなかったこと，アンケート結果の分析や改善策の作成に委員会のメンバーが十分にかかわれなかったことが，組織力を強化するという点で課題となった。これ以外にも，中間評価の資料には何を用いたらよいか，評価方法は３段階が適当か，教職員に対するアンケートも必要なのではないかなどの運営上の問題も残った。

そこで，平成 19 年度は，残された問題を解決しつつ評価システムの確立を目指すとともに，教職員一人一人の学校評価に対する意識を更に高めることを目標に，研究のテーマを「参画意識を高め教育活動の充実を図る学校評価」とした。

２　研究の内容

(1) 研究のねらいと手だて

学校評価は，その結果を踏まえて学校運営の改善につながってこそ意味がある。私たちは，全教職員で学校評価に取り組むことが，一人一人の教職員の参画意識とやる気を高め，よりよい教育活動を実践していこうとする意欲や能力を高めることにつながっていくと考えている。それには，学校評価委員会を，学校運営組織の中で機能させ，推進役として全教職員に広めていくことが必要である。

本市では平成 16 年度より２学期制を導入しており，前期末の中間評価は，２学期制の特性を生かす学校評価になるととらえている。

そこで，次の手だてを基に中間評価を実施し，研究テーマに迫ろうと考えた。

① 学校評価委員会の活動を年間計画に組み入れ，学校評価を計画的に実施する。

② 評価資料を「学校運営にかかわる教職員よる自己評価」と「アンケート」の二つにして，総合的に評価し，後期の学校運営・教育活動に反映する。

③ 学校評価委員会のメンバーが主体的に評価にかかわるようにするために，評価活動での役割を分担する。

(2) 平成 19 年度学校評価の年間計画

昨年度の反省に基づき，学校評価委員会を年間計画に位置付けることで，学校評価に対する意識を全教職員に浸透するよう努めた。資料１は，本校の学校評価年間計画である。

【資料１　学校評価年間計画】　（各項目の先頭の数字は開催日）

月	学校評価委員会等	アンケート	公開・報告等
4	3 学校経営方針の提示 各分掌・各学年・各教科の目標設定 6 前期始業式		23 ＰＴＡ総会 前年度の学校評価の報告と本年度の方針説明
5	17 第１回学校評価委員会（学校評価の方針・計画等） 22 第１回学校評議員会・外部評価委員会 （外部評価委員委嘱・昨年度の結果報告と今年度の方針）		前年度・今年度の学校評価の報告 （上旬 ホームページ）
6	21 第２回学校評価委員会 アンケート・評価資料の検討		
9	10 教職員自己評価 各分掌・各学年・各教科の評価 20 第３回学校評価委員会 アンケート集計・分析及び改善策の検討	5 前期末保護者・児童・教職員アンケート実施 20 集計・分析	
10	4 後期改善策の協議 前期末自己評価書の作成（秋休み） 5 前期終業式 10 第２回学校評議員会・外部評価委員会 11 後期始業式		学校アンケート報告 （中旬 プリント） 外部評価委員会報告 （中旬 学校便り）
2	19 第４回学校評価委員会 アンケート集計・分析及び改善策の検討 25 第３回学校評議員会・外部評価委員会	保護者・児童・教職員アンケート実施（上旬～） 19 集計・分析	 外部評価委員会報告 （下旬 学校便り）
3	5 教職員の学年末自己評価 各分掌・各学年・各教科の評価 15,23 次年度の改善策を協議 24 後期終業式		1 学年学級懇談会 アンケート報告（プリント）

(3) 中間評価に向けて

４月に示された教育目標を具体化し，分掌や部会，個人で取り組んできたことを，後期の学校運営や教育活動に生かしていくためには，年度途中のＣ（評価）→Ａ（改善）となる中間評価が必要である。本校では従来，前期末に反省会という形で実施してきた。項目立てはしていたが，その内容は，個人的であったり，系統性に欠けていたりしていた。そこで，昨年度は，学校の教育活動の中での評価にかかわるものを洗い出し，「教職員による自己評価」を作成し，２学期制という大きな柱を中心に据えて総合的に取り組むようにした。皆が同じ評価シートを使用することで，評価への意識は高まっ

た。しかし，教職員以外の評価は行わなかったので，内容は従来の反省会のような形になってしまった。また，後期に向けての取組内容を保護者や地域に公表することもなかった。

第１回学校評価委員会で，本年度は，「学校運営にかかわる教職員による自己評価」と外部アンケートを基に，中間評価を実施すること，また，学校関係者評価（外部評価委員会）を経て，その結果を「竹島小学校だより」とプリントで公表するという計画を確認した。

ア　学校運営にかかわる教職員による自己評価シート（資料２）

昨年度，学校経営案に基づいた項目，項目ごとに評価の観点を設けた自己評価シートを作成した。本年度はそれを部分修正し，使うことにした。校長の指導の下，教頭が原案を作り，第２回学校評価委員会で検討し，職員会議で提示した。本年度の重点目標の一部変更に合わせて，評価の観点を変え，た。評価者がより慎重に評価することを期待し，３段階から４段階評価に変更した。

【資料２　教職員自己評価シート】

平成 19 年度　(学校運営にかかわる教職員による自己評価) ＜中間＞

19. 6. 21

１　学校評価のねらい

学校教育目標「生きる力をもった，個性豊かで，実践力に富んだ子供の育成」，並びに校訓「なかよく　たのしく　たくましく」の具現化に向けて展開してきた。活力ある学校づくりに向けて前期の教育活動を自己点検し，その結果を基に，更に本校の教育の充実を図るものとする。

２　評価方法

(1) 学校経営，学級経営全般を見て評価する。

(2) 評価欄には，＜４ 十分達成できた，３ ほぼ達成できた，２ あまり達成できなかった，１ 不十分である＞の数字で記入する。

(3) 今後の課題・提言等の空白欄には，今後の課題や建設的な提言を記入してください。

(4) ２又は１を記入した場合，問題点を書いてください。

締め切り　９月 17 日（金）教務主任まで提出してください。

３　本年度の重点努力目標

ア　「学校・学年・学級」経営目標の具現化　　イ　２学期制を生かした確かな学力の定着と楽しい学校づくり

ウ　基本的生活習慣の確立　　エ　子供理解と組織的な対応　　オ　現職研修の充実

カ　家庭・地域との連携強化

項目	№	評　価　の　観　点　（　項　目　と　内　容　）
目標	1	学校教育目標を（校訓）を具体化して，学年・学級目標を立てたか。
	2	学年・学級の目標を具体化して指導しているか。
	3	Ｐ－Ｄ－Ｃ－Ａの評価サイクルを取り入れて，学級の目標が達成されてきているか。
教科	4	教育課程の計画に基づき，各教科の授業時数が確保できたか。
	5	毎授業，目標が分かるように板書を工夫して進めているか。
	6	基礎基本を身に付けさせるために反復練習を取り入れたか。
	7	全員が参加できる活動を多くするなど，指導方法を工夫しているか。
	8	体験的な活動を取り入れるような教材開発や単元構想を行っているか。
	9	個に応じた指導を重視して指導方法を工夫したか。
	10	作品やノートに朱書きや助言や励ましを加えて返却しているか。
	11	子供の伝え合う力（聞く・話す力）の育成に向けた指導をしているか。
	12	評価を踏まえて課題や補充問題を設定しているか。
	13	評価規準をつくって，日常的に評価を行っているか。
	14	情報教育の指導を計画的に進めているか。

総合	15	総合の年間計画に基づき，学習を展開しているか。
	16	総合で身に付けさせる能力の育成に向け，指導の工夫をしているか。
図書館	17	子供の読書習慣を高める指導をしているか。
	18	絵本の部屋や図書室を活用しているか。
道徳	19	指導計画に沿って，内容項目を押さえて指導に当たっているか。
	20	道徳の授業の時間を予定通り実施しているか。
	21	子供の実態や指導目標に合わせて，教材を工夫したか。
	22	「心のノート」を意図的に活用しているか。
	23	道徳の授業内容が家庭に伝わるように工夫しているか。
特別活動	24	学級活動，委員会活動等について基本方針を踏まえていたか。
	25	学校行事に主体的に参加できるよう，意識付けをして取り組んでいるか。
	26	一人一人の活躍の場を保障し，成就感を味わわせる支援をしているか。
	27	認め合いや協力を学ぶための活動場面を工夫しているか。
生徒指導	28	子供理解のために個人記録や実践記録を累積しているか。
	29	学級でいじめや問題となる行動に対して適切に対応しているか。
	30	助け合ったり思いやったりする温かい人間関係が育っているか。
	31	あいさつ・整理整頓・礼儀・言葉遣い等の基本的習慣を指導しているか。
	32	子供との会話や相談の場を意識的に設けているか。
健康安全	33	健康安全教育の計画に沿って実践しているか。
	34	学校内外の安全（廊下を走らない等）のための働き掛けを日常的に行っているか。
	35	学校外の安全（交通ルール，遊び等）のための働き掛けを日常的に行っているか。
	36	けがや病気の子供への対応は適切に行っているか。
特別支援	37	特別支援教育が必要とされる児童を把握し，対応策を話し合うことができているか。
	38	保護者や特別支援に携わる人と連絡を取りながら適切な支援をしているか。
	39	支援の方法や子供の成長など，記録を累積しているか。
	40	特別支援教育の取組が子供の成長に結び付いているか。
開かれた学校学級	41	学年・学級便りで学習や生活の様子を適切に伝えているか。
	42	授業参観日等の授業や行事について保護者の感想を集約しているか。
	43	学習の場に地域の講師や保護者の協力を得る場を設けているか。
研修	44	子供の「話す・聞く力」は，定着，向上しているか。
	45	授業研究や他学級・学年との交流授業を行っているか。
	46	研究推進等を通して研究を推進しているか。
学校運営	47	職員会議では，各自の意見が尊重され反映されているか。
	48	自分の校務分掌は適切に遂行しているか。
	49	学校運営の組織は適切に機能しているか。
	50	情報の管理は，適切に行っているか。
教材施設設備	51	校舎や教室等の学習環境を整えるよう努めているか。
	52	安全点検を計画的に実施し，改善がなされているか。
	53	副教材を授業で有効に活用しているか。
	54	視聴覚機器や施設設備を有効に活用しているか。

イ　外部アンケートの作成

昨年度のアンケートは，児童，保護者を対象に実施した。児童と保護者が学校をどのようにとらえているのか，両者の意識に違いはあるのかを知ることはできたが，教職員と比べることはできなかった。そこで，今年度は児童，保護者，教職員の三者にアンケートを実施することにした。

アンケート項目の作成に当たっては，教職員が，教育目標（重点目標）を，日ごろの教育活動の中で，どう受け止め具体化して，児童や保護者に働き掛けているのかを中心に据え，教頭が他校のものを参考に原案を作り，第２回学校評価委員会で検討した。（資料３）児童，保護者アンケートは，教職員の質問項目と連動させ,三者の意識の一致や違いが分かるようにした。三者間での意識の違いから，問題点を見付けることができれば，それを後期の改善目標とすることができると考えた。

【資料３－１　教職員アンケート】

教職員による学校評価集計

☆次の質問項目について、あなたの考えに合うものの評価欄に○をつけてください。

A：そう思う	B：どちらかといえばそう思う
C：どちらかといえばそう思わない	D：まったくそう思わない

No	質　問　項　目	評価 A	B	C	D
1	学校は保護者に対して、学校の教育目標をわかりやすく保護者や地域に伝えていますか。				
2	学校は地域や家庭の要望に応えていますか。				
3	学校は家庭への連絡をきめ細かくおこなっていますか。				
4	子どもたちは楽しく学校に通っていますか。				
5	子どもたちは友だちと仲よく過ごしていますか。				
6	子どもたちはあいさつがしっかりできていますか。				
7	子どもたちは規則正しい生活ができていますか。				
8	子どもたちは外で遊んだり運動したりしていますか。				
9	子どもたちは学習に対して意欲的に取り組んでいますか。				
10	子どもたちは進んで自分の考えを発言することができていますか。				
11	子どもたちは進んで本を読むことができていますか。				
12	あなたは子どもから相談があった時、親切に応じていますか。				
13	学校は安心して生活できるような環境づくりに努力していますか。				
14	学校は地域に開かれた学校づくりに取り組んでいますか。				

☆竹島小学校をよりよくするために、どのようなことに力を入れ取り組んだらいいと思いますか。
ご意見がありましたら、以下にお書きください。

意見	

【資料３－２　保護者アンケート】

＜保護者アンケート＞

竹島小学校の教育活動評価

お子さんは１・２・３・４・５・６年生（○をつけてください）

☆次の質問項目について、あなたの考えに合うものの評価欄に○をつけてください。
☆お子さんが二人以上いらっしゃる方は、それぞれの用紙にご記入ください。
☆アンケート用紙は封筒に入れて、お子さんに持たせてください。

A：そう思う　B：どちらかといえばそう思う　C：どちらかといえばそう思わない
D：まったくそう思わない　E：わからない

No	質　問　項　目	評価 A	B	C	D	E
1	学校は保護者に対して、学校の教育目標(生き生き のびのび 楽しい学校、みんな なかよし みんな元気)をわかりやすく伝えていますか。					
2	学校は、家庭や地域の要望に応えていますか。					
3	学校は、家庭への連絡をきめ細かくおこなっていますか。					
4	お子さんは、楽しく学校に通っていますか。					
5	お子さんは、学校で友だちと仲よく過ごしていますか。					
6	お子さんは、あいさつがしっかりできていますか。					
7	お子さんは、規則正しい生活ができていますか。					
8	お子さんは、外で遊んだり運動したりしていますか。					
9	お子さんは、学習に対して意欲的に取り組んでいますか。					
10	学校は、確かな学力がつくような努力と工夫をしていますか。					
11	学校は、お子さんのことについて親切に相談に応じていますか。					
12	学校は、いじめや不登校などについて真剣に対応していますか。					
13	学校は、安心して生活できるような環境づくりに努力していますか。					
14	学校は、地域に開かれた学校づくりに取り組んでいますか。					

☆竹島小学校をよりよくするために、今後、どのようなことに取り組んだらいいと思いますか。
ご意見がありましたら、以下にお書きください。

【資料３－３　児童アンケート】

平成１９年度

学校生活についての児童アンケート

(　　)年

☆みなさんの４月から今までの学校生活をふりかえり、下の質問に答えてください。

☆あなたの考えに合うものをＡ～Ｅから選び、考えの欄のＡ～Ｅのいずれかに○をつけてください。

A：そう思う　B：どちらかといえばそう思う　C：どちらかといえばそう思わない
D：まったくそう思わない　E：わからない

No	質　問　項　目	考え(回答) A	B	C	D	E
1	わたしは、楽しく学校生活をおくっている。					
2	わたしは、運動会や学習発表会など、学校の行事が楽しい。					
3	わたしは、友だちとなかよくすごしている。					
4	わたしは、きまりや約束ごとを守っている。					
5	わたしは、友だちや先生、家族や安全ボランティアの人などに、進んであいさつをしている。					
6	わたしは、学級や友だちのために役立つことをしている。					
7	わたしは、規則正しい生活(早寝・早起き・朝食)ができている。					
8	わたしは、放課に外で遊んだり、進んで運動したりするようにしている。					
9	わたしは、授業の内容がよくわかる。					
10	わたしは、進んで自分の考えを発表し、友だちの考えはしっかり聞いている。					
11	わたしは、進んで本を読んでいる。					
12	先生はいじめや困っていることがあるとき、真剣に相談にのってくれる。					
13	先生は、あなたの努力やがんばりをよくほめてくれる。					

※わからないことがあったら、先生に聞いて答えてください。

(4) 中間評価の実際

夏休み明け，９月５日から 10 日までの期間に児童・保護者・教職員アンケートを実施した。続いて，教職員は資料２を使って自己評価を行った。

保護者アンケートで子供の様子を尋ねる設問は，兄弟によって回答が異なる場合も考えられるという理由で，児童数分を配付した。

アンケートの整理は分担することにした。学級ごとの集計は担任にお願いした。それは，担任は学級児童や保護者の意識の実態を把握することができるという点と，少しでも多くの教職員がかかわることが，学校評価への参画意識を高めることになるという期待からである。保護者の意見の取扱いは，特に指示を出さなかったが，担任はその内容に目を通してから教頭に提出していたようだ。アンケート全体のまとめは教頭，学校運営の自己評価シートは教務主任が行うように分担した。

ア　学校運営にかかわる教職員による自己評価の結果

評価の達成基準は，４：十分達成できた（80%以上），３：ほぼ達成できた（70%以上），２：あまり達成できなかった（40%以上），１：達成できなかった（39%以下）とした。

資料４は中間評価の結果をまとめたものであるが，この結果を分析するに当たって，平均で 2.8 点を「ほぼ達成できている」の目安とし，現在の教育活動を進めていけばよいと判断するようにした。例えば，項目６の「基礎基本の定着」に向けた取組は，3.18 の平均値を得ていることから，担任の指導が十分行われているととらえた。逆に，2.8 点に達していない項目 13「評価規準」や項目 14「情報教育」は努力・改善項目とし，今後の方策を検討した。また，記述部分で意見が出された課題についても協議し，後期に生かすようにした。

【資料４－１　中間評価結果のまとめ】

分担	項目	No.	評価の観点〈項目と内容〉	評価	努力点・改善点等
教頭	目標	1	学校教育目標を〈校訓〉を具体化して、学年・学級目標を立てたか。	3.11	・目標の具体化が不十分である。 ・評価サイクルを意識できなかった。 ・R→Aまでのサイクルを最後まで追う余裕がない。 ・評価を終えていない目標がある。
		2	学年・学級の目標を具体化して指導しているか。	2.72	
		3	R－P－D－C－Aの評価サイクルを取り入れて、学級の目標が達成されてきているか。	**2.41**	
教務・１年～４年主任	学習指導〈教科〉	4	教育課程の計画に基づき、各教科の授業時数が確保できたか。	2.76	・授業時数の足りない教科がある。 ・行事・総合を計画的に進める。 ・見通しをもって長期的な展望にたって計画実践していく。 ・たまにしかできない。 ・基礎基本習得の時間をどこで確保するか。 ・話す聞くなどメリハリのある、けじめをもった指導の徹底。 ・聞くためのスキルアップを図りたい。 ・日常的に行うのはできない。 ・協力学年の活動があまり把握できていない。 ・情報教育の指導をするゆとりがない。 ・定期的に活用したいが、授業に追われていた。 ・スピーチの聞き方を伸ばすために、ワークシート等を作ってみたい。 ・児童が考えやすい手立てを工夫する。 ・計画的に行うのはなかなか難しい。 ・後期は計画的に行っていく。
		5	毎授業、目標がわかるように板書を工夫して進めているか。	2.76	
		6	基礎基本を身につけさせるために反復練習を取り入れているか。	3.18	
		7	全員が参加できる活動を多くするなど、指導方法を工夫しているか。	3.00	
		8	体験的な活動を取り入れるような教材開発や単元構想を行っているか。	2.76	
		9	個に応じた指導を重視して指導方法を工夫しているか。	2.82	
		10	作品やノートに朱書きや助言や励ましを加えて返却しているか。	3.12	
		11	子供の伝え合う力〈聞く・話す力〉の育成にむけた指導をしているか。	2.76	
		12	評価を踏まえて課題や補充問題を設定しているか。	2.94	
		13	評価規準をつくって、日常的に評価を行っているか。	**2.47**	
		14	情報教育の指導を計画的に進めているか。	**1.94**	
	学習指導〈総合〉	15	総合の年間計画にもとづき、学習を展開しているか。	2.69	
		16	総合で身につけさせる学力の育成に向け、指導を工夫しているか。	2.62	
	学習〈図書館〉	17	子供の読書習慣を高める指導をしているか。	2.94	
		18	絵本の部屋や図書室を活用しているか。	2.59	
	学習〈道徳〉	19	指導計画にそって、内容項目を押さえて指導にあたっているか。	2.76	・子供の実態に応じて項目を入れ替えている。 ・子供の実態に応じて項目を選び、指導過程を工夫するようにしているが、手探りの状態である。 ・使いやすいところと、そうでないところがある。 ・子供が書いたものに朱を入れて返している。 ・道徳の授業内容は特に知らせていない。 ・どのような方法でしらせたらよいか。
		20	道徳の授業の時間を予定通り実施しているか。	3.00	
		21	子供の実態や指導目標に合わせて、教材を工夫しているか。	3.00	
		22	「心のノート」を意図的に活用しているか。	**2.47**	
		23	道徳の授業内容が家庭に伝わるように工夫しているか。	**2.12**	
○○教諭	特別活動	24	学級活動、委員会活動等は基本方針を踏まえているか。	3.11	・委員会は月2回にして子供たちの常時活動の意欲を育てていきたい。 ・活動内容を十分練れず、認め合いや助け合いを学ぶ場を設定できなかった。
		25	学校行事に主体的に参加できるよう、意識づけをして取り組んでいるか。	3.06	
		26	一人一人の活躍の場を保障し、成就感を味わわせる支援をしているか。	3.06	
		27	認め合いや協力を学ぶための活動場面を工夫しているか。	2.83	

【資料４－２　中間評価結果のまとめ】

分担	項目	No.	評価の観点（項目と内容）	評価	努力点・改善点等
校務	生徒指導	28	子供理解のために個人記録や実践記録を累積しているか。	3.17	・あいさつの徹底が必要。 ・週1回行っているいじめ・不登校対策委員会（竹島ネットワーク）が機能し、先手の生徒指導を行うことができた。 ・挨拶や言葉遣いなどの問題は、その都度問題を投げかけ注意していきたい。 ・子供との相談を意識的に十分とることができなかった。
		29	学級でいじめや問題となる行動に対して適切に対応しているか。	3.11	
		30	助け合ったり思いやったりする温かい人間関係が育っているか。	2.94	
		31	挨拶・整理整頓・礼儀・言葉遣い等の基本的生活習慣を指導しているか。	3.06	
		32	子供との会話や相談の場を意識的に設けているか。	3.11	
保健主事・養教	健康安全	33	健康安全教育を計画にそって実践しているか。	2.78	・保健だよりの発行を十分に行えなかった。
		34	学校内の安全（廊下を走らない等）のための働きかけを日常的に行っているか。	3.00	
		35	学校外の安全（交通ルール、遊び等）のための働きかけを日常的に行っているか。	2.89	
		36	けがや病気の子供への対応を適切に行っているか。	3.11	
コーディネーター	特別支援	37	特別支援教育が必要とされる児童を把握し、対応策を話し合えているか。	3.12	・特別支援講師との打ち合わせの時間をとれるようにしたい。 ・話し合う時間がない。
		38	保護者や特別支援に携わる人と連絡を取りながら適切な支援をしているか。	2.88	
		39	支援の方法や子供の成長など、記録を累積しているか。	3.07	
		40	特別支援教育の取組が子供の成長に結びついてきているか。	2.87	
教務	開かれた学校学級	41	学年・学級便りで学習や生活様子を適切に伝えているか。	2.94	・見通しをもった計画ができなかった。 ・地域の方の協力を得て、授業を展開できたらと思う。 ・今のところ地域の協力を得る必要がない。 ・担任としては集約しにくい。
		42	授業参観日等の授業や行事について保護者の感想を集約しているか。	**2.33**	
		43	学習の場に地域の講師や保護者の協力を得る場を設けているか。	**2.12**	
教務	研修	44	子供の「話す・聞く」力は、定着、向上しているか。	2.61	・話す力がまだ弱いと思う。
		45	他学級や他学年と協力して授業を行っているか。	2.94	
		46	授業研究等を通して研究を推進しているか。	3.00	
教頭	学校運営	47	職員会議では、各自の意見が尊重され反映されているか。	3.21	・人事異動が大きく苦しい場面があった。
		48	自分の校務分掌を適切に遂行しているか。	3.11	
		49	学校運営の組織は適切に機能しているか。	3.16	
		50	情報の管理は、適切に行っているか。	3.16	
○○教諭	教材施設設備	51	校舎や教室等の学習環境を整えるよう努めているか。	3.26	・視聴覚機器の使い方を確認したい。 ・指摘を受けてから改善することが数回あった。
		52	安全点検を計画的に実施し、改善がなされているか。	3.21	
		53	副教材を授業で有効に活用しているか。	2.78	
		54	視聴覚機器や施設設備を有効に活用しているか。	**2.44**	

イ　評価資料の分析

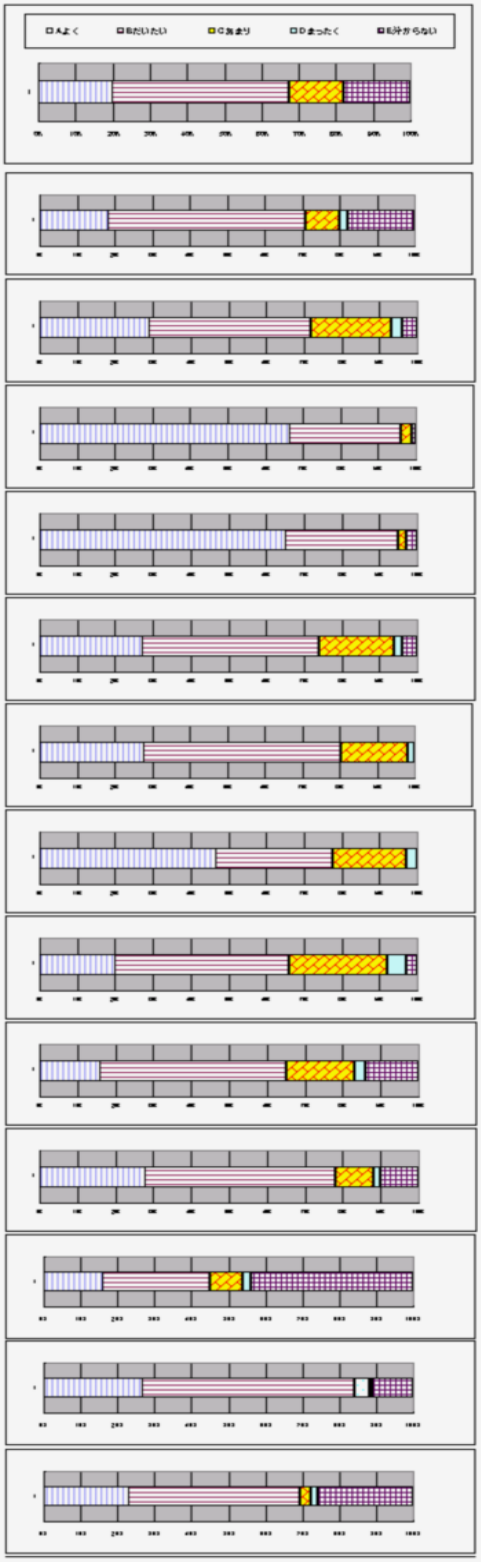
評価の重要なところは,資料に表れている数字や意見・要望をどう受け止めるか,何が問題点でどうしたら改善できるかを考えることにある。

第３回学校評価委員会では，資料４，資料５及び保護者の意見・要望等の一覧表を提示した。まず，アンケート結果の概略と問題点を説明し，協議に移った。

【資料５－１　アンケート集計表】

平成19年度　学校評価　保護者アンケート集計表

番号	設問		%
1	学校は保護者に対して、学校の教育目標「いきいきのびのび楽しい学校、みんななかよし、みんな元気」をわかりやすく伝えている。	A	20%
		B	48%
		C	15%
		D	0%
		E	18%
2	学校は地域や家庭の要望に応えている。	A	18%
		B	53%
		C	9%
		D	2%
		E	18%
3	学校は家庭への連絡をきめ細かく行っている。	A	29%
		B	43%
		C	21%
		D	3%
		E	4%
4	子供は楽しく学校に通っている。	A	67%
		B	30%
		C	3%
		D	0%
		E	1%
5	子供は学校で友だちと仲よく過ごしている。	A	65%
		B	30%
		C	2%
		D	0%
		E	3%
6	子供はあいさつがしっかりできている。	A	27%
		B	47%
		C	20%
		D	2%
		E	4%
7	子供は規則正しい生活ができている。	A	28%
		B	53%
		C	18%
		D	2%
		E	0%
8	子供は外で遊んだり運動したりしている。	A	46%
		B	31%
		C	19%
		D	3%
		E	0%
9	子供は学習に対して意欲的に取り組んでいる。	A	20%
		B	46%
		C	26%
		D	5%
		E	3%
10	学校は確かな学力がつくような努力と工夫をしている。	A	16%
		B	49%
		C	18%
		D	3%
		E	14%
11	学校は子供のことについて親切に相談に応じている。	A	28%
		B	51%
		C	10%
		D	2%
		E	10%
12	学校はいじめや不登校などについて真剣に対応している。	A	16%
		B	29%
		C	9%
		D	2%
		E	44%
13	学校は安心して生活できるような環境づくりに努力している。	A	27%
		B	58%
		C	4%
		D	1%
		E	11%
14	学校は地域に開かれた学校づくりに取り組んでいる。	A	23%
		B	47%
		C	3%
		D	2%
		E	26%

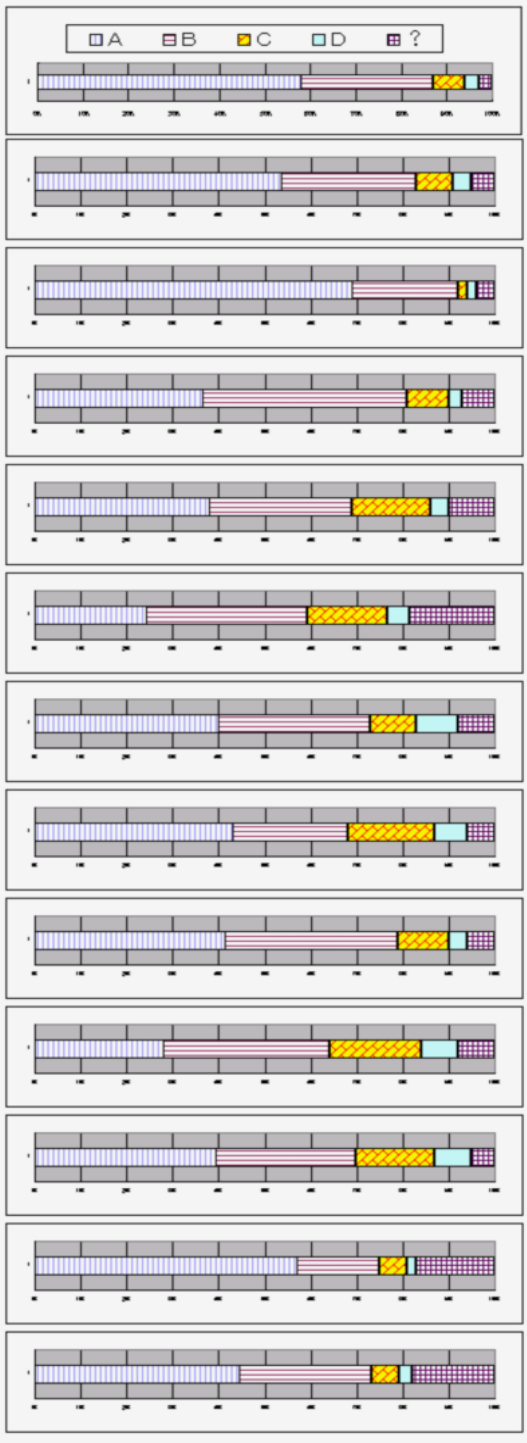


【資料５－２　アンケート集計表】

平成19年度　学校評価　児童アンケート集計表

A:そう思う　B:どちらかといえばそう思う　C:どちらかといえばそう思わない　D:まったくそう思わない　E:わからない

番号	設問		%
1	楽しく学校生活をおくっている。	A	58%
		B	29%
		C	7%
		D	3%
		E	3%
2	運動会や学習発表会など、学校行事が楽しい。	A	53%
		B	29%
		C	8%
		D	4%
		E	5%
3	友だちと仲良く過ごしている。	A	69%
		B	23%
		C	2%
		D	2%
		E	4%
4	きまりや約束ごとを守っている。	A	36%
		B	44%
		C	9%
		D	3%
		E	7%
5	友だちや先生、家族や安全ボランティアの人などにあいさつができる。	A	38%
		B	31%
		C	17%
		D	4%
		E	10%
6	学級や友だちのために役立つことをしている。	A	25%
		B	36%
		C	18%
		D	5%
		E	19%
7	規則正しい生活(早寝・早起き・朝食)ができている。	A	40%
		B	33%
		C	10%
		D	9%
		E	8%
8	外で遊んだり、運動したりしている。	A	43%
		B	25%
		C	19%
		D	7%
		E	6%
9	授業の内容がよくわかる。	A	41%
		B	37%
		C	11%
		D	4%
		E	6%
10	進んで自分の考えを発表できる。	A	28%
		B	36%
		C	20%
		D	8%
		E	8%
11	進んで本を読むことができる。	A	39%
		B	30%
		C	17%
		D	8%
		E	5%
12	先生は、いじめや困っていることがあるとき、真剣に相談にのってくれる。	A	57%
		B	18%
		C	6%
		D	2%
		E	17%
13	先生は、あなたの努力やがんばりをほめてくれる。	A	45%
		B	29%
		C	6%
		D	3%
		E	18%



問題点として取り上げられたものに,「あいさつ」がある。児童・保護者が肯定的であるのに対して，教職員は否定的なとらえをしていることである。保護者の中にも「声が小さい」「自分からできない」などがあり，児童会執行部を中心に全校を巻き込んだ取組を行う方向で話が進んだ。

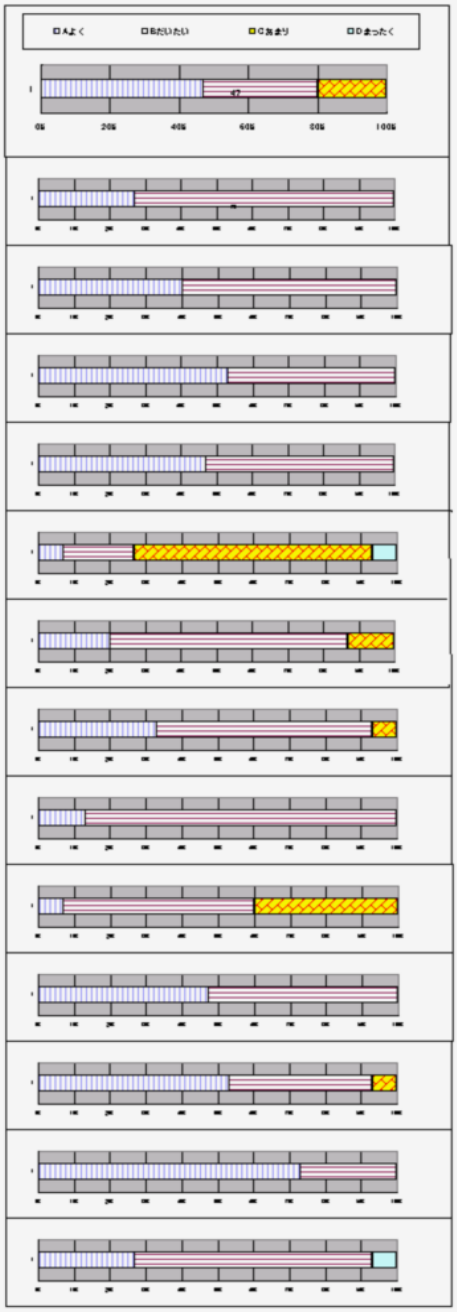
また,「家庭への連絡をきめ細かに行っているか」について，24%の保護者が否定的であった。学年や学級により，回答に偏りがあったが,「学年便りだけでは，よく分からない」の声や,「形式的で，学級や学年のねらいが伝わってこない」の厳しい意見もあり，学年便りや学級便りの改善を目指し保護者の要望に応えていく話合いがなされた。

保護者の意見・要望に対して，学校評価委員会で協議したもの以外は,担当者を決め,回答を作成するようにした。また，資料２についても，担当者が評価結果及び課題をまとめ,改善していくためには,どのような方策が考えられるのかをまとめて，教頭まで提出するようにした。

【資料５－３　アンケート集計表】

平成19年度　学校評価　教職員アンケート集計表

番号	設問		%
1	学校は保護者に対して、学校の教育目標をわかりやすく保護者や地域に伝えている。	A	47%
		B	33%
		C	20%
		D	0%
2	学校は地域や家庭の要望に応えている。	A	27%
		B	73%
		C	0%
		D	0%
3	学校は家庭への連絡をきめ細かく行っている。	A	40%
		B	60%
		C	0%
		D	0%
4	子どもたちは楽しく学校に通っている。	A	53%
		B	47%
		C	0%
		D	0%
5	子どもたちは友だちと仲よく過ごしている。	A	47%
		B	53%
		C	0%
		D	0%
6	子どもたちはあいさつがしっかりできている。	A	7%
		B	20%
		C	67%
		D	7%
7	子どもたちは規則正しい生活ができている。	A	20%
		B	67%
		C	13%
		D	0%
8	子どもたちは外で遊んだり運動したりしている。	A	33%
		B	60%
		C	7%
		D	0%
9	子どもたちは学習に対して意欲的に取り組んでいる。	A	13%
		B	87%
		C	0%
		D	0%
10	子どもたちは進んで自分の考えを発言することができている。	A	7%
		B	53%
		C	40%
		D	0%
11	子どもたちは進んで本を読むことができている。	A	47%
		B	53%
		C	0%
		D	0%
12	あなたは、子どもから相談があったとき親切に応じている。	A	53%
		B	40%
		C	7%
		D	0%
13	学校は安心して生活できるような環境づくりに努力している。	A	73%
		B	27%
		C	0%
		D	0%
14	学校は地域に開かれた学校づくりに取り組んでいる。	A	27%
		B	67%
		C	0%
		D	7%



ウ　自己評価書の作成

10月４日の職員会議では，評価資料を配付し前期の反省を行った。各担当者から分析結果・改善方策の提案を受け，全教職員で協議した。豊富なデータを基に協議することで，学校評価を身近なものとしてとらえられたように思う。担当者の考えと職員会議の総意を，教頭が「学校評価自己評価書」（資料６）及び「アンケートの結果の分析と今後の方針」（資料７）にまとめた。

【資料６　「学校評価自己評価書」】

平成19年度

竹島小学校　学校評価自己評価書　（前期）

H. 19. 10. 10

学校教育目標

「生きる力」をもった，個性豊かで，実践力に富んだ子どもの育成
校　訓　　たのしく　なかよく　たくましく

子ども像の具体化

いきいき　のびのび　楽しい学校，みんな　なかよし，みんな　元気
○ たのしく　生き生き伸び伸びと活動し，楽しく学ぶ子
○ なかよく　礼儀と思いやりの心をもって，なかよくする子
○ たくましく　最後まで粘り強く取り組む，心も体も元気な子

経営方針

○ 学びの楽しさを味わわせる授業作りと学校行事の展開	・授業改善を進め，確かな学力の向上を図る。 ・個に即した指導を行い，基礎的基本的な事項の定着を図る。 ・主体的に参加できる学校行事を展開し，多面的な子どもの成長を促す。
○ 基本的な生活習慣の定着と豊かな心の育成	・挨拶の実践化を進め，心を言葉で伝え合う習慣化を図る。 ・道徳教育の充実を図り，思いやりの心を育む。 ・子どもの主体的な活動を支援し，実現化を図る。
○ 生命の尊重と健康教育・安全教育の徹底	・自らの生活を振り返らせ，よりよい生活リズムを身につけさせる。 ・体を動かす楽しさを味わわせ，進んで体力づくりに取り組ませる。 ・健康管理や事故防止の大切さを理解させ，実践力を身につけさせる。

自己評価

重点目標	具体的方策	項目		評価	評価結果と課題	改善方策
ア．「学校・学年・学級」経営目標の具現化	・学校，学年，学級の一貫性の中で学校教育目標の具現化をめざす。 ・各学年の到達目標を明確にし，学年を育てる意識のもとに学級の個性を育てる。	目標		○	・学校教育目標を具体化して，学年・学級目標を立ててはいるが，前期末の段階では評価がむずかしい項目があるという声があった。	・学年・学級目標は１年かけての達成目標ではあるが，中間評価を○→Aのよい機会とし，改善すべきは改善して，信念と熱意をもってあたり，半年後に目標が達成できるようにする。。
イ．２学期制を生かした確かな学力の定着と楽しい学校づくり	・本校の教育課程を見通し，計画的・意図的な指導で確かな学力の定着を図る。 ・子供が活きる授業づくりに努め，学ぶ楽しさ，分かる喜びを味わわせる。 ・指導と評価の一体化を図り，個に即した指導方法の改善を図る。	学習指導	教科	○	・わかる授業，基礎基本の定着，作品への朱書き・助言への取組はよくできたが，日常的な評価，情報教育の指導は不十分であった。	・日常的に子供の成長や頑きを累積する。 ・情報教育指導計画に基づき指導する。 ・教育活動のあらゆる場面で，聞く・話す力を意識して指導し，伝え合う力の向上に努める。
			総合	○	・年間計画に基づいて指導を進められない部分があった。また，総合的な学習がねらっている学力の育成に向けての工夫が不十分であった。	・指導計画に基づき指導を進める中で，来年度の指導内容，年間計画について検討を加える。
			図書館	○	・読書タイム，読書貰などの取組で着実に読書意欲は高まってきている。 ・絵本の部屋，図書室の活用が十分でなかった。	・図書の充実，図書館の整備を進め，より活用しやすい図書室にする。
	・命の大切さ，他者への思いやり，協力の心など豊かな心の育成を図る。		道徳	○	・子供の実態に応じて指導すべき項目を入れ替えて指導している。 ・道徳の授業の内容が家庭に伝わる工夫に欠けている。	・「心のノート」を活用する。 ・学年・学級だより等で授業内容が各家庭に伝わるようにする。
			特活	○	・活動内容を十分練ることができず，認め合いや助け合いを学ぶ場を設定できなかった。	・子供たちののびやかな発想を生かし，主体的な活動を促すとともに，活動後にふり返りの場を設定する。
	・子供の成長をうながし，子供が主体的，創造的に関わる学校行事を展開する。	学校行事		◎	・年間計画通り実施できている。子供が主体的に参加できるよう，一人一人に活躍の場を保障して指導している。	・駆け足訓練，学習発表会等での活動が主体的なものとなるよう工夫する。
ウ．基本的生活習慣の確立 エ．子ども理解と組織的な対応の強化	・挨拶，返事，言葉遣い，話す聞く態度等，心を言葉で伝え合う力を身につけさせる。 ・教育相談，「竹島ネットワーク」を充実させ，全職員で全児童を守り，問題の予防，早期解決に努める。	生徒指導		◎	・週1回行っている情報交換(竹島ネットワーク)が機能し，積極的な生徒指導を行うことができた。 ・不登校児童ゼロ ・あいさつの声が小さいこと，自主的でないことが課題である。	☆児童会執行部を中心に全校ぐるみであいさつ運動を展開する。
	・健康教育，安全教育の日常化に努め，安全な生活習慣を身につけさせる。	健康安全		○	・校内の安全(廊下を走らない)習慣は，担任の指導で自然と身に付いてきている。 ・交通事故が一件もなかった。 ・健康安全の年間計画が意識されていない。	・保健だよりを定期的に発行し，教職員・児童・保護者が健康安全を意識して，生活できるようにする。
エ．特別支援教育の充実	・障害をもつ子の理解に努め，特別支援教育の実践かを図る。	特別支援		○	・職員全体で校内委員会をもち共通理解を図ったため，児童理解が深まった。 ・担任と補助員の打ち合わせの時間を生み出す必要がある。個々の記録を指導に生かすようにしたい。	・竹島ネットワークの内容を「いじめ・不登校対策・特別支援委員会」とし，特別支援を必要とする子供理解に努める。
ウ．現職研修の充実と教職員の資質向上	・相互信頼と共通理解のもと，磨き合う職員手段としての資質向上に励む。 ・「たいなあふぃっぱい竹島っ子「伝え合う力の向上」のテーマのもと，学ぶ楽しさを味合わせる授業を目指した授業力の向上を図る。	研究・研修		○	・伝え合う力の育成を研究の柱に，教科部会，学年部会で指導内容や指導方法の検討を行い，総合的な学習，道徳，国語の授業研究を実施できた。	☆子供が本気になって取り組む課題や発問を工夫するとともに，話し聞き合える学級づくりをすることで，伝え合う力を養う。
カ．家庭・地域との連携の強化	・授業参観，PTA活動の活性化を図り，家庭の教育力の向上に努める。 ・学校だより，学年学級通信等の発行，H・P等の配信，学校評議員制の導入等を通して開かれた学校を目指し，家庭地域との連携を深める。	家庭地域との連携		△	・学級学年，学校だよりを定期的に発行しているが，情報不足な面やアピールの仕方が十分でないものもあった。 ・授業等に保護者や地域住民の協力を得る場が少なかった。	・学年・学級だよりの内容の充実に努める。 ・教職員のニーズに応じた人材バンクとなるように整備する。
キ．全教職員の主体的な参画	・自己点検・自己評価・外部評価の活用	学校運営		○	・人事異動が大きく苦しい場面や分掌があるが，全体としては機能している。	・若い教師を独り立ちできるように育てる。
		施設設備		◎	・安全点検を計画的に実施し，故障箇所や不具合については，その都度の整備をした。 ・夏休みに職員作業日を設け，図工室の整理，遊具のペンキ塗り，草刈り等を行った。	・今後も施設設備を整備し，活用しやすいようにする。

エ　学校関係者評価（外部評価）

本校では，学校評議員を平成 17 年度から設置した。本年度は１名増員し，保護者代表として２名（前年度ＰＴＡ会長と今年度ＰＴＡ副会長），校区内の地域関係団体代表として１名（学区総代会代表），学区内の学識経験者１名，保育園・保育園関係者１名，主任児童委員１名の計６名を学校評議員に委嘱した。６名の学校評議員の方には，外部評価委員も兼任していただいている。

第１回学校関係者評価（外部評価）委員会（第２回学校評議員会）を秋休み（10 月６日から 10 月 10 日まで）最終日の 10 月 10 日に開いた。「学校評価自己評価書」（資料６）と「アンケートの結果の分析と今後の方針」（資料７）を示して，中間評価の結果と今後の方針を報告した後，それぞれの方から意見を伺った。

【資料７　アンケート結果の分析と今後の方針】

結果の分析と今後の方針

① 「読書」については，進んで読む子（18 年度の 5,000 ページ達成者は 202 名，19 年度は９月 28 日現在で 55 名）とそうでない子の差が大きいと考えられる。学校では，読書の時間をできるだけ確保しているが，家庭での読書習慣が身に付いていないと思われる。

・量だけでなく，質的な向上を求める読書指導を重視する。
・読書ファイルを次学年まで保管し，読書の記録を累積できるようにする。
・家庭での読書の習慣化に向けた啓発を行う。（夏休みに「夜の図書館開放」を２回行い，親子で読書に親しんだ。各回 50 名参加）

② 「あいさつ」については，児童の 69%，保護者の 74%がしっかりできていると言っているが，教職員は 27%ととても低い。校内での児童のあいさつは自発的でないことが多く，声が小さい。また，地域でのあいさつがしっかりできていないという声をよく聞くことも事実である。

・学校生活の中で，大きな声で元気よくあいさつする習慣を身に付ける。
・家庭や地域でもあいさつが自然とできる雰囲気にしたい。

③ 「進んで発言」については，良い評価が児童 64%，教職員 60%となっている。

・教職員は児童が興味をもち，本気になって取り組める課題や発問を工夫する。
・児童が自分の考えを遠慮なく発言でき，互いの発言を聞き合える学級づくりをする。

④ 「家庭への連絡」については，「まだまだ不十分である」と回答している保護者が 24%となっているが，その数字は学級・学年でかなりばらつきが見られる。また，昨年度末の保護者へのアンケートで，「児童が学校での出来事を家で話すか」という設問に「あまり話さない」という答えが 26%であった。

・学校便り，学年・学級通信を発行し，学校の様子をタイムリーに伝えるように努める。
・各種便りを話題にして，家庭での親子の会話が深まることを期待する。

⑤ 「いじめ・不登校への対応」については，今回のアンケートの中で，「分からない」の回答が 44%と最も多かった。こうした問題は，児童の個人情報にかかわることが多く，当事者以外の保護者には伝えることができないことであるので，この数字には納得できる。ただ，学校がどのような対策・対応をとっているのか，知らせていくことは必要なことである。

・週１回の「いじめ・不登校対策等」の情報交換の場（竹島ネットワーク）を継続する。
・生徒指導便りを適宜，発行し理解を求める。

オ　学校評価の公表

第１回学校関係者評価（外部評価）委員会の様子と，そこで出された意見については，学校便り「竹島小学校だより」（資料８）で各家庭に報告した。同時に，アンケート結果の分析と今後の方針をプリントにまとめた「前期学校アンケートの結果報告」を各家庭に配付した。この公表は学校と児童，保護者，また地域との約束であるととらえている。

３　成果と課題

昨年度の実践で構築した学校評価システムに部分的な修正を加え，中間評価を終えることができた。中間評価ということで自己評価書を設置者に提出するところまでは至らなかったが，今年度末の学校評価では，実施していく予定である。この中間評価での成果と課題は次のようである。

(1) 学校評価の年間計画について

ア　学校評価の計画と学校評価委員会の開催を年間予定表に明示することで，評価資料の収集や整理を計画的に行うことができた。

イ　アンケート配付依頼(9/5)から評価資料にまとめるまでに２週間，その後の学校評価委員会，職員会議を経て学校関係者評価（外部評価）（10/10）までで，およそ２週間を要した。もう少

し，期間を短縮する手だてを考えたい。

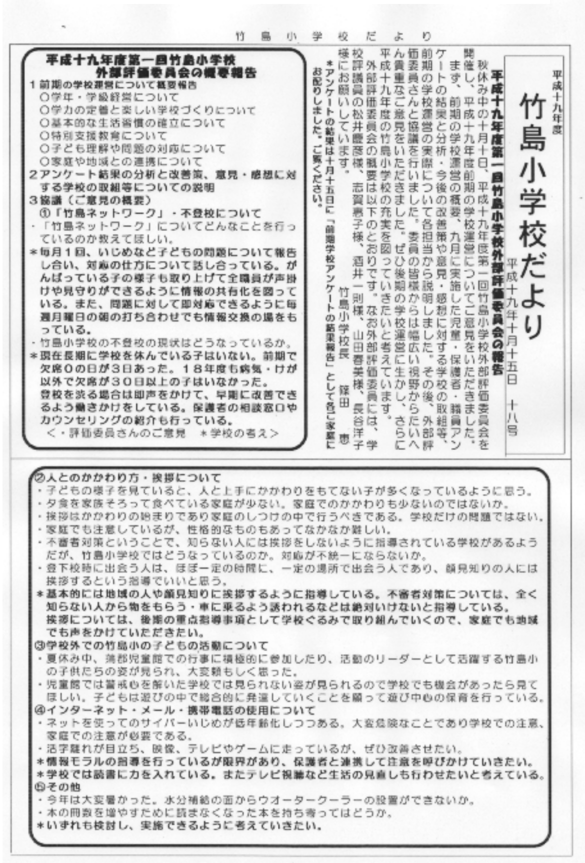
(2) 評価資料について

ア　児童，保護者，教職員を対象にアンケートをとることによって，意識の違いや一致から竹島小学校の教育を三者がどうとらえているかが把握できた。同時に実施した教職員による自己評価の結果とを合わせ，二つの資料から問題点を見付け，解決のための方策を考えることができた。

イ　「学校運営にかかわる教職員による自己評価」「アンケート」共に，教頭が原案を作り，学校評価委員会で検討するようにしたが，その場では意見は少なかった。しかし，実施してみると，「評価の項目が多い」という声や，この設問は子供には難しいと思われるものもあった。

ウ　目標の達成基準の数値は提示したが徹底していなかったため，評価者の主観的な評価になってしまった面がある。

【資料８　「竹島小学校だより」】


竹島小学校だより

平成十九年度
竹島小学校だより
平成十九年十月十五日　十八号

平成十九年度第一回竹島小学校外部評価委員会の報告

秋休み中の十月十日、平成十九年度第一回竹島小学校外部評価委員会を開催し、平成十九年度前期の学校運営についてご意見をいただきました。まず、前期の学校運営の概要、九月に実施した児童・保護者・職員アンケートの結果と分析・今後の改善策や意見・感想に対する学校の取組等、前期の学校運営の実際について各担当から説明しました。その後、外部評価委員さんと協議を行いました。委員の皆様からは幅広い視野からたいへん貴重なご意見をいただきました。ぜひ後期の学校運営に生かし、さらに平成十九年度の竹島小学校の充実を図っていきたいと考えています。なお外部評価委員会の概要は以下のとおりです。外部評価委員には、学校評議員の松井慶彦様、志賀恵子様、酒井一則様、山田春美様、長谷洋子様にお願いしています。

竹島小学校長　篠田　恵

＊アンケートの結果は十月十五日に「前期学校アンケートの結果報告」として各ご家庭にお配りしました。ご覧ください。

平成十九年度第一回竹島小学校外部評価委員会の概要報告

1 前期の学校運営について概要報告
○学年・学級経営について
○学力の定着と楽しい学校づくりについて
○基本的な生活習慣の確立について
○特別支援教育について
○子ども理解や問題の対応について
○家庭や地域との連携について
2 アンケート結果の分析と改善策、意見・感想に対する学校の取組等についての説明
3 協議（ご意見の概要）
①「竹島ネットワーク」・不登校について
・「竹島ネットワーク」についてどんなことを行っているのか教えてほしい。
＊毎月１回、いじめなど子どもの問題について報告し合い、対応の仕方について話し合っている。がんばっている子の様子も取り上げて全職員が声掛けや見守りができるように情報の共有化を図っている。また、問題に対して即対応できるように毎週月曜日の朝の打ち合わせでも情報交換の場をもっている。
・竹島小学校の不登校の現状はどうなっているか。
＊現在長期に学校を休んでいる子はいない。前期で欠席０の日が３日あった。１８年度も病気・けが以外で欠席が３０日以上の子はいなかった。
登校を渋る場合は即声をかけて、早期に改善できるよう働きかけをしている。保護者の相談窓口やカウンセリングの紹介も行っている。
＜・評価委員さんのご意見　＊学校の考え＞

②人とのかかわり方・挨拶について
・子どもの様子を見ていると、人と上手にかかわりをもてない子が多くなっているように思う。
・夕食を家族そろって食べている家庭が少ない。家庭でのかかわりも少ないのではないか。
・挨拶はかかわりの始まりであり家庭のしつけの中で行うべきである。学校だけの問題ではない。
・家庭でも注意しているが、性格的なものもあってなかなか難しい。
・不審者対策ということで、知らない人には挨拶をしないように指導されている学校があるようだが、竹島小学校ではどうなっているのか。対応が不統一にならないか。
・登下校時に出会う人は、ほぼ一定の時間に、一定の場所で出会う人であり、顔見知りの人には挨拶するという指導でいいと思う。
＊基本的には地域の人や顔見知りに挨拶するように指導している。不審者対策については、全く知らない人から物をもらう・車に乗るよう誘われるなどは絶対いけないと指導している。
挨拶については、後期の重点指導事項として学校ぐるみで取り組んでいくので、家庭でも地域でも声をかけていただきたい。
③学校外での竹島小の子どもの活動について
・夏休み中、蒲郡児童館での行事に積極的に参加したり、活動のリーダーとして活躍する竹島小の子供たちの姿が見られ、大変頼もしく思った。
・児童館では警戒心を解いた学校では見られない姿が見られるので学校でも機会があったら見てほしい。子どもは遊びの中で総合的に発達していくことを願って遊び中心の保育を行っている。
④インターネット・メール・携帯電話の使用について
・ネットを使ってのサイバーいじめが低年齢化しつつある。大変危険なことであり学校での注意、家庭での注意が必要である。
・活字離れが目立ち、映像、テレビやゲームに走っているが、ぜひ改善させたい。
＊情報モラルの指導を行っているが限界があり、保護者と連携して注意を呼びかけていきたい。
＊学校では読書に力を入れている。またテレビ視聴など生活の見直しも行わせたいと考えている。
⑤その他
・今年は大変暑かった。水分補給の面からウオータークーラーの設置ができないか。
・本の冊数を増やすために読まなくなった本を持ち寄ってはどうか。
＊いずれも検討し、実施できるように考えていきたい。

(3) 学校関係者評価について

学校教育を理解し応援する立場で，率直な意見や評価を頂くことができた。

(4) 参画意識について

学校評価は全教職員で行うことに意義があると考え，アンケート処理は担任に，学校評価委員会のメンバーには，評価資料の分析・改善方策の作成や保護者からの意見や要望への回答の一部を分担した。このことにより，少なくとも，分担された部分については真剣に受け止めてくれたように思う。また，全教職員で協議会をもったことで，学校評価を自分のものとしてとらえる態勢ができ，以下の後期の重点目標づくりにつながったと思う。

①　児童会活動を中心にして，あいさつの習慣化を図る。
②　本年の研究目標「伝え合う力」を育てるため,「聞く・話す力」を伸ばす授業実践を継続する。
③　学級・学年便り，生徒指導便りをタイムリーに発行し，保護者との連携を図る。

４　おわりに

評価項目や評価の観点の検討, 資料の分析や整理など, 難しく手間の掛かる作業もあった。しかし,「学校運営にかかわる教職員による評価」やアンケートの資料を基に，全教職員で学校運営や教育活動を見直す場がもてたことと，後期の重点目標に対する新たな手だてが講じられつつあることが，今回の中間評価の最大の収穫である。

よりよい学校評価を進めることが，活気ある学校，開かれた学校，信頼される学校づくりにつながると考えている。今後も研究・実践に努めていきたい。